

教育学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	募集せず (-)	-	-	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
3年次 編入学	募集せず (若干名)	-	-	-	-	-	-	-	-
		(1)	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	14 (14)		- (2)		- (2)		3 (12)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	76 (74)			46 (43)			1 (0)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	- (-)	- (-)	- (1)	- (-)	- (-)			
	退学者	5 (4)	1 (-)	2 (1)	2 (-)	12 (8)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 教育学研究科の活動

研究科の主要な活動としては、授業及び研究指導の他に、博士学位授与に関する予備審査会の開催がある。これらを通して学生の研究力量を高めるとともに、学生と教官及び国内外の研究者との交流も図った。その結果、課程修士授与者3名、大学研究所等就職者（国内大学6名、学術振興会特別研究員（PD）2名）8名を出した。

2 教員の教育業績評価の状況

教育学研究科では、教員各自による授業・研究指導についての自己点検評価が基本になってはいるが、教員の教育業績は、担当授業科目の単位数、課程修了者数、学位審査の主査・副査の担当、学生の受賞や就職状況、研究科運営への貢献などを目安にしている。しかし、たとえば、研究科の研究指導において重要な位置を占めている総合指導は、複数の分野の複数の教員によって担当されており、研究科の教員の教育業績には、個々の教員に分割化不可能な教育業績があることも確かである。とはいえ、法人化を控え教員の教育業績の評価体制の確立は焦眉の課題と言える。教育学研究科の教員全体の教育業績としては以下のように総括される。論文・著書等の発表および学会発表の件数が若干増加した。人間総合科学研究科の発足にともない、入学者が無くなり、また年次進行で学生数自体が減少しているため、論文・著書発表数、学会発表数が若干とはいえ増加したことは、実質的には大幅な増加といえる。論文博士授与数は昨年度よりも減少しているが、これは論文博士の審査が13年度以降申請分については、人間総合科学研究科に移ったためである。このため、教育学研究科において予備審査に合格した1名については、人間総合科学研究科の学位審査を経て学位が授与された。教育学研究科においても予備審査会が開催されたが、申請者が就職のため退学し課程修了には至らなかった。結果として課程修了者を全く出すことが出来なかった。この点は大きな課題として残される。一方、受賞者（大学院優秀論文賞）1名を出すことができ、学生の研究・学習の活性化を促すことが期待される。課程修了には至らなかったものの、単位取得退学者で、大学研究所等に就職した者は6名であり、また学術振興会の特別研究員（PD）に2名採用されたことは特筆されてよい。近年の就職状況の厳しさを考慮すると、本研究科は教育学界における研究者養成の社会的責務を果たしている、といえる。

3 自己評価と課題

研究科担当教員の異動はなかったが、すでに昨年度定年退官にともない欠員となった4名の研究科担当教員の後任補充が完了していない。学生に対する研究指導體制の充実のためにも早急の補充が望まれる。新研究科への改組再編にともない教育学研究科は、課程博士のみを対象とする学位審査組織となったが、課程修了者数を増加させることが最重要な課題である。これに関連して、年次進行にともない研究科学生の学年が上がり、課程修了をするための残り年限が少なくなってきた。学生への支援・指導體制を一層強化して、課程修了者を増やすとともに、新研究科への円滑な移行等の現実的な措置を検討する必要がある。